

①町立学校の適正規模について

学校の適正規模については、児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨（せつさくたくま）することを通じて一人ひとりの資質や能力を伸ばしていくという学校の特質を踏まえ、小中学校では、一定の集団規模が確保され、国の法令上における学校の標準規模を考慮しつつ、学級編成替えができる規模とすることが望ましいと考えます。

また、これまでの歴史的経緯や広範囲にわたる通学区域の状況、学校が地域コミュニティに大きな役割を果たしていることなど、地域のさまざまな事情も考慮する必要があり、学校統廃合の検討にあたっては、児童生徒及びその保護者（就学前児童の保護者を含む）はもとより、地域住民の十分な理解と協力を

得る必要があります。

将来的には、静内地区の小中学校においては、1校もしくは2校に、中学校においては、1校に再編することが望ましいと考えます。再編にあたっては、一律に実施するのではなく、段階的に年次計画を策定して再編を進め、その際には、通学区域の見直しも併せて検討することも必要であると考えます。

三石地区においては、市町村合併から11年、小学校の大規模統合から7年と日が浅い状況や地理的条件から、現在の状況を継続することが望ましいと考えます。

これらのことから、静内地区と三石地区は、分けて整理することが必要であると考えます。

②町立学校の適正配置について

学校の配置については、施設の立地条件を十分考慮し、児童生徒が安全で安心な学校生

活を送ることができる所在（場所）であることが望ましいと考えます。

③町立学校の施設整備について

学校の施設整備にあたっては、従来の改築（建替え）や大規模改造中心の整備から、既存施設を最大限活用しコスト低減を図ることができる「長寿命化改修」も選択肢の一つとして整備を検討するとともに、将来を踏まえた時代にふさわしい生活・学習環境

の整備、防災機能の充実、さらには地域の活動拠点としての複合化・多機能化など、単に学校（教育施設）の位置づけにとどまらず、地域コミュニティを念頭においた施設整備が大切であると考えます。



④再編整備に関し必要な事項について

再編整備に関し必要な事項として、9年間を見通し一貫した教育課程・教育指導により、児童生徒の学力・体力・情操を伸ばし、異学年交流や相互乗り入れ授業など、多様な学習活動や学校行事を展開できることで豊

かな人間性を養うことや、中一ギャップによる不登校問題の未然防止などに有効な手段である小中一貫教育の導入や学校運営に地域や保護者が参画するコミュニティ・スクールを導入することが必要であると考えます。

意見の提出方法

新ひだか町立学校再編整備（中間報告）の①から④について、ご意見をお願いします。
※詳細は、町公式ホームページ又は教育委員会教育部管理課窓口でご覧いただけます。

意見提出用紙（町公式ホームページ上からダウンロード可）又は任意様式にご住所、お名前、ご意見などを記入のうえ、郵送、ファックス又は電子メールで提出願います。もちろん持参でも結構です。

（郵送又は持参の場合）

〒056-0014 新ひだか町静内古川町1丁目1番2号

新ひだか町教育委員会教育部管理課

☎ 49-0088 FAX 43-3955 ✉ shizunai-boe-kanri@bridge.ocn.ne.jp



【募集締切】

平成30年5月8日(火)

新ひだか町立学校再編整備 （中間報告）に対する意見募集

これからの学校のあり方について、一緒に考えましょう！

現在、町教育委員会では、町民で組織する新ひだか町立学校再編整備検討委員会の皆さんと一緒に町の地域性を踏まえた学校の適正規模、適正配置及び施設整備のあり方をまとめるため、新ひだか町立学校再編整備計画（仮称）の策定に向けた協議を進めています。

この度、検討委員会から、これまでの検討結果をまとめた中間報告書が提出され、次のとおり新ひだか町

立学校再編整備（中間報告）の概要としてまとめました。

学校の再編整備は、子どもたちの教育環境や地域に大きく関わることから、次の概要の4点について、多くの町民の皆さんからご意見をいただき、議論を深めていくことが大切であると考えていますので、町にとって望ましい学校のあり方についてご意見をお寄せください。

新ひだか町立学校再編整備（中間報告）の概要

〇はじめに

町立学校の再編整備については、合併後これまでの間、小中学校の統廃合が進められ、一定の集団規模の確保や複式学級の解消が図られてきました。

しかし、小学校においては、現在も複式学級を設置している学校があるとともに、市街地の小学校では、高静小学校を除いて各学年1学級の単式学級で、山手小学校においては、20人以下の学年が複数あるなど、市街地を含めて全町的に小規模化傾向が進んでいます。

また、中学校においては、生徒数の減少による学級数の減少や部活動の縮小など、小学校、中学校ともに、学校運営上のさまざまな支障が生じてきていることから、学校の再編整備は必要であると考えます。

町にとって望ましい学校再編整備のあり方について、さらなる検討を進め、次代を担う子どもたちの「生きる力」を育てる教育環境の充実が図られることを目指します。

